



かがやけ

佐世保市立猪調小学校

文責 校長 鶴田 和久

学力を支える基盤

7月13日、学校へ佐世保市教育委員会より文書が届きました。それは、「平成29年度全国学力・学習状況調査『保護者に対する調査』の公表について」というものでした。その前日である7月12日、このことについて、読売新聞の社説に次のような記事が記載されていました。少し抜粋してみます。

親の年収や学歴が子供の学力にどのような影響を及ぼすのか。文部科学省が調査結果を公表した。

小学6年、中学3年を対象にした昨年度の全国学力テストと、併せて行った保護者12万人のアンケートを研究者らが分析した。

国語、算数・数学の平均正答率は、親の年収が多いほど高かった。2013年の前回調査と同様の傾向にある。家庭の経済状況が学力に影響していることの表れだ。(中略)親が高学歴の場合も、子供の正答率は概ね高い傾向にあった。

家計に余裕があれば、塾などに費用をかけやすい。子供が幼少の頃から、進学に対する親の期待が高いこともあるのだろう。

これだけであれば、以前にもいわれており、教育に費用をかけられるところはいいなあで終わってしまいそうですが、注目したいのは次の点です。

一方で、親の年収や学歴が高くなくても、規則正しい生活習慣のある子供の成績は、概して良好な点にも注目したい。「決まった時刻に起きるようにしている」「毎日朝食を食べさせている」「計画的に勉強するよう促している」。保護者アンケートで、これらの項目に当てはまる家庭の子供たちだ。

活字に接する習慣があるほど、学力が高い傾向も鮮明になった。好成绩の子供の親は、「小さい頃、絵本の読み聞かせをした」「本や新聞を読むように勧めている」などと回答する割合が高かった。

そして、新聞には記載されていませんが、実際の調査報告書には、教育に多くの費用をかけられないが成績が良好な児童の特徴として、以下の点が挙げられています。

- ・ものごとを最後までやり遂げる姿勢が強い傾向がある。
- ・異なる考えをもつ他者とコミュニケーションする能力などが高い傾向がある。
- ・授業の復習を重視する傾向が強く、学校で習う内容が確実に定着している。
- ・日常生活の中で一定の学習時間を確保している。

また、保護者の働きかけの特徴としては次のことが挙げられています。

- ・学校での出来事、友だち、勉強、進路、地域や社会の出来事やニュース等、会話が深い。
- ・テレビやDVDを見たり聞いたりする時間などのルールを決めている。
- ・子どもに努力することの大切さを教えている。
- ・子どもに最後までやりぬくことの大切さを教えている。

このようにして見ていくと、どれも普段から猪調小学校で子どもたちに指導をしている内容であり、ご家庭で取り組まれている内容がほとんどだと思います。学力を向上させるために必要なことは、当たり前なことを当たり前できるように子どもを育てていくこと。そして、それを継続していくことだとの思いを強くしました。

今後も、子どもたちのよりよい成長につながっていくように、猪調小学校でのこれまでの取組を更に充実させ、発展させていきたいと思っております。

最後に学校教育に関して、新聞には次のように記載されていました。

学校の役割も大きい。今回の調査では、家庭の経済状況にかかわらず、全体的に子供の学力が高い小中学校の特徴を分析した。教師が家庭学習をきめ細かく支援し、放課後の個別指導も手厚く行っているという共通点があった。

毎日、宿題のノートに教師が助言を書き入れて返すなど、**地道な取り組みが重要である。生活指導に力を入れ、親や地域と信頼関係を築く努力も欠かせない。**

教師が忙しすぎるとの指摘がある中、必要に応じて教職員を重点配置するなど、柔軟な対応が求められる。自治体やNPO（非営利組織）による放課後の学習支援活動も拡充したい。

家庭環境に目配りし、丁寧な指導で学力の底上げを図る。それが公教育の責務である。

放課後の個別指導という点に関しては、なるべく集団で下校させるという安全安心の観点からなかなか実施は難しい側面があります。その代わりに朝の学習タイムの取組や家庭学習の充実、休み時間などの活用での取組を進めています。

猪調小学校は、温かい家庭や地域の皆様方の見守りによって支えられています。また、職員も誠実で熱意のあるものが揃っています。この3者をしっかりとつなぎながら、よりよい猪調の子どもを育成していくことは、校長の責務だと考えています。今後とも、猪調小学校の取組にご理解とご支援をお願いいたします。

「自ら考え、学びをいかす子どもの育成」についての研究

6月25日(月)長崎県教育委員会から1名、佐世保市教育委員会から2名の先生をお招きして、授業研究会を開きました。これは、本校、猪調小学校が、平成30年度・31年度の2年間に渡り、長崎県教育委員会と佐世保市教育委員会の研究指定を受けたことによる、中間指導というものでした。このことについては、これまでも学校支援会議等の場所においては幾度かお知らせをしてきたのですが、学校通信においては今回が初めてになると思います。

この研究指定を受けるに当たって、教育委員会の方から、「猪調小学校の子どもたちは、学力の高さは一定のラインを維持している。学習規律等、学習に向かう姿勢もすばらしい。また、職員の授業づくりについても質の高い授業が実践されている。このすばらしさについて佐世保市をはじめとした長崎県全体に発信してほしい。そして、そのノウハウを広めてほしい」という趣旨の発言をいただきました。

猪調小学校の子どもたちがこのように褒められ、職員の取組が評価をされたことは、校長としては、たいへんありがたく、誇らしく思いました。

本研究のテーマは、「自ら考え、学びをいかす子どもの育成～『つなぐ力・つながる力』の向上をめざした算数科学習を通して～」としました。これは、32年度から完全実施となる新学習指導要領において、柱の一つとしてあげられている「主体的で、対話的で、深い学び」をいかした授業づくりについての研究です。まだまだ、研究の途についたばかりで課題は多いのですが、全職員でよりよい猪調の子どもを育てていくために研究をおこなうという思いを共有しながら、取組を進めていきます。この取組については、今後も随時お知らせをしていきます。

来年度の本発表においては、さまざまなご協力をお願いする場面が出てくると思います。その際には、ご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。



当日は、二年生の子どもたちが元気に「千までの数」の学習に取り組んでくれました。